

国立がん研究センターによる「多目的コホートに基づくがん予防など 健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究（JPHC）」 及び「次世代多目的コホート研究（JPHC-NEXT）」について

1 概要

本研究は、生活習慣と疾病リスクとの長期的関連を明らかにすることを目的とした国内最大規模の前向きコホート研究です。1990 年に開始された JPHC 研究（多目的コホート研究）および 2011 年以降の JPHC-NEXT 研究（次世代多目的コホート研究）において、二戸地域は創設期から継続的に協力してきました。二戸保健所は国立がん研究センターがん対策研究所、岩手医科大学、県立病院、圏域市町村等と連携し、住民対象の調査や結果のフィードバックを含めた取り組みを進めています。

2 最近の主な動向

令和 7 年 12 月 8 日、国立がん研究センターがん対策研究所 コホート研究部 澤田典絵部長による講演会を、二戸市シビックセンターにおいて開催し、地域住民へエビデンスを還元しました。

3 研究成果（エビデンスの一部紹介）【要点抜粋】

- (1) 脳出血の危険因子を部位別（皮質下・被殻・視床・小脳・脳幹）に分析した世界初の研究。特に血清コレステロール低値と皮質下出血との関連が示された。
- (2) ナトリウム摂取量と全死亡・非感染性慢性疾患死亡の関連：
男性ではナトリウム摂取量が多いほどリスク上昇（全死亡 +11%、慢性疾患死亡 +25%）
女性では全死亡との関連は見られなかったが、脳血管疾患死亡リスクは摂取量が多いほど高い傾向
- (3) ポリフェノール摂取とがん罹患リスク
全体として明確な関連は見られなかったが、肝がんにおいて摂取量が多いほどリスクが低下する傾向が認められた。
- (4) 「健康な食事」への遵守度と死亡リスク
遵守度が高い群ほど、全死亡・脳血管疾患死亡・呼吸器疾患死亡のリスクが低下。
男性ではさらにがん死亡、循環器疾患死亡、心疾患死亡のリスクも低下。

4 今後の方向性と期待

二戸地域におけるエビデンスの継続的創出と、住民や関係機関への情報還元。
医療従事者への啓発と、行政・地域医療機関との連携強化。
コホート研究の結果を地域保健活動や保健所事業へ応用し、「科学的根拠に基づく地域健康づくり」へと昇華。

5 参考詳細情報等 以下の QR コードよりアクセス可能です。

